

第24回長浜市歴史まちづくり協議会 要点録

- 日時 令和8年2月12日(木) 13時30分～15時10分
- 場所 長浜市役所3階 特別会議室
- 出席者 奥貫隆、大場修、中島誠一、中嶋綾子、竹村光雄、中村妃都美、太田浩司、永井利憲、北村智顕、速水茂喜、和田本啓、伊藤治仁、横尾仁(敬称略)
- 欠席者 岡絵里子(敬称略)
- 傍聴人 0人
- 配布資料
- ・資料1様式1【変更】変更箇所一覧
 - ・資料2様式2【変更】新旧対照表
 - ・資料3令和7年度進行管理・評価シート
 - ・資料4令和7年度中間評価シート
 - ・参考資料1長浜市歴史まちづくり協議会委員名簿
 - ・参考資料2長浜市歴史まちづくり協議会規則
 - ・参考資料3長浜市情報公開条例及び附属機関等の会議の公開等に関する要綱

○会議録

1 あいさつ等

- ・事務局(省略)

2 審議事項

議事1：長浜市歴史的風致維持向上計画の軽微変更について

- ・事務局から長浜市歴史的風致維持向上計画の変更について説明

(委員)

P219 市民協働部生涯学習課文化財保護室が、産業観光部文化観光課歴史まちづくり室に改組されたのか。

(事務局)

組織改編により、文化財係が歴史まちづくり室に加わった。文化財の保護だけでなく、活用も含めて進めるべく組織改編された。

(委員)

P216 有形文化財の数の記載について、市としての有形文化財建造物の特徴は何なのかということを追記してはどうか。P221 重点区域内の文化財の割合(30%)は、何を意味するのか。

(事務局)

追記は検討する。割合は、重点区域に文化財が集中している価値の高さを示したい意図である。

(委員)

承知した。重点区域の価値を高めていくには、区域内の登録文化財の数を増やすことも大事。この30%、これを増やすということが必要だろうと思う。

(会長)

先ほど委員から組織について意見があったが、今日配布したページの欄外に、経緯を付しておくといよい。次の機会に備えて、事務局にお任せする。

(事務局)

検討する。

(委員)

改組の経緯は、市が歴史文化にどう向き合っているのかという姿勢を表しており、いい名前である。

(事務局)

改組は、保存だけでなく活用にも力を入れるという意思を反映してのものである。今後の説明資料の表記は検討する。

(委員)

P124 浅井郡を中心とした信仰について、現存する具体的な行事(8月15日の竹生島の蓮華会)を計画に追記し、信仰の形がよく見えるように追加していただきたい。

(事務局)

検討する。

議事2：長浜市歴史的風致維持向上計画の年度評価について

- ・事務局から長浜市歴史的風致維持向上計画の年度評価について説明

(委員)

～P8 伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業記載のきのもと建物マップについて追加説明～木之本街並み研究会で北国街道を一つずつ回り100件くらい調査し作成した。明治、大正、江戸時代の家が並ぶことが木之本の町並みの特色である。中央の地図は、滋賀県立大学のゼミが北国街道を調査作成したものを使用した。移住されてきた方と一緒に考え、おしゃれな地図になった。若い方が考えてくれるとえらい違うんやな、と思った。この建物マップを作って、木之本のまちの建物を残していこうと意識した。

(会長)

各シートのデータ作成は、事業担当課か。また、書きぶりについて相互調整しているか。

(事務局)

担当課で作成し、相互調整している。

(委員)

令和7年度進行管理・評価シート P5 黒壁ガラス館本館耐震改修事業、P6 歴史的建築物保存活用事業・伝統的街並み景観形成事業について、改修前、改修後の内容が、写真で分かるようにしていただきたい。建造物改修の記録は、写真が大事なので、可能な限りその内容が分かるよ

うに資料を作成してほしい。

(事務局)

掲載写真は担当課に確認する。現状ではこの写真しかない。改修後の写真は差替えする。

(委員)

市民もホームページで確認することができる。建造物の改修は写真を見比べると良くわかるので、その効果を最大化してほしい。

また、P4 大通寺伽藍群保存修理事業の大通寺の古地図の色分けの意図は。文化財指定が望まれるなどの意図により色を分けているのか。

(事務局)

P4 大通寺伽藍群保存修理事業として、講場をクローズアップし色分けした。指定を望む意図ではない。このシートは、講場保存修理事業のことを示しているので、講場について色をつけており、講場でないところは色がついてない。

(委員)

総会所の色はドラマ館に使用しており、また未指定であるということが言いたいのでは。

(委員)

理解した。

(会長)

今、大通寺の図面について大場先生から指摘があったが、計画書の図の表記と異なっている。計画書の図面を使用し、整合を図ってほしい。

(事務局)

了解した。

(会長)

令和7年度進行管理・評価シートは、担当課から提出されるが、事務局として過年度分の資料も含めて照合してほしい。時点修正がされていないと資料としての信頼が損なわれる。既に事業が完了した場合も含めて、担当課が自己評価するものであり、事務局の立場から、担当課に協力依頼し、書きぶりの充実を図っていただきたい。

(事務局)

対応する。

(会長)

調整された結果について、必要であれば意見を伝える。

(委員)

P10 木之本宿道路整備事業の道路美装化の写真は、中央に消雪装置、両側の白い線までが車道、その両サイドは歩道という理解でよろしいか。

(都市建設部長)

道路交通法関係で、白線など決まりごとがあり、この部分は歩道である。一般的な歩道は歩車道分離でわけていくが、この場合は歩行しやすいように、白線表示をしている。

(委員)

伝建地区でないが、文化庁の担当者が道路の美装化は歴史的な根拠に基づいて、と指導してい

る。江戸時代の道路境界線はここまでと分かっているにも関わらず、歩道の幅が決められていく。木之本は、水路が道の真ん中に昔通っていた。美装化の際に、かつての道幅をその表面に示すことができれば、歴史性を反映した美装化になる。そういう歴史的な背景も考慮にした美装化であってほしい。両側は水路が通っているのか。

(都市建設部長)

そのとおりである。

(委員)

さらにその外側に左側に見える白いラインは何か。

(都市建設部長)

それも側溝である。

(委員)

側溝の内側に、道路側にもう一つ水路があったのか。

(都市建設部長)

そのとおりである。道路整備で宅内排水と消雪設備を入れた。地元とそれぞれの地権者と相談し、こういった構造になった。

(委員)

理解した。木之本の景観がこの消雪設備によって綺麗になったという印象を受ける。

(会長)

委員から質問及び見解が発言としてあった。それぞれの意見は議事録として記録されるが、事業担当部署には、どういう形で伝達されるのか。

(事務局)

会議の結果等、随時担当課に伝達している。

(会長)

現在は伝建地区でないが、市の北部を特徴づける重点区域（北国街道木之本宿区域）に指定している。事業を行う上で、本来の歴史まちづくりの趣旨に則った事業計画がなされてほしい。委員の皆さんも同じ考えをお持ちだろう。協議会としての空気を事業担当の方にできるだけ正確に伝えていただきたい。この協議会は、自らが整備をするわけではなく、担当部署が市の事業として実施するものについて、歴史まちづくりという観点から、その方向性が適切であるかどうかについて意見を頂戴する場であり、ここで出された意見は、担当課に伝達するように努めてほしい。

(事務局)

承知した。

(委員)

進行管理・評価シートに掲載された写真の件はそのとおりである。ビフォーアフターが全然見えない。以前、黒壁の写真がないかと尋ねたが、ないという回答だったことを覚えている。大通寺は、シートに講場、総会所、茶所、因講、二十八日講の保存修理設計調査等を実施すると書いてあるが、もうないにも関わらず図が掲載されており、矛盾している。前回の会議でも指摘したが、訂正されていない。

また、P11 長浜曳山祭保存伝承事業の三役修業塾の塾生の派遣について、兵庫県多可町は、播州歌舞伎として非常に有名な所であり、人員は足りていると思っていたが、派遣と記載がある。何を派遣したのか。

(委員)

派遣ではなく、交流である。

(委員)

いわゆる技術派遣ではない。

(委員)

そのとおりである。

(委員)

では、塾生の交流という表現がいいと思う。

P17 文化財の調査に関して、鍛冶屋の太鼓など、色々頼まれて調査しているが、そこで感じるのは、地元の人達の祭りに対する愛である。色々な所で調査をしているが、これぐらい自分のところの祭りを大事にしている地域はなかなかない。いつも感動している。ただ、3 行目の道具類(シャグマ)は、ハンマに修正してほしい。このように地域によって呼び方が違うということは、文化財としてとても大事なことである。今後はそういったことも併せて調査していきたい。

長浜市には無形民俗文化財保存活用協議会というものがあって、ユニークな活動をしている。協議会の存在自体が一つの特徴であると同時に、団体から出された要望を文化庁の支援事業でケアしているが、地元でもきちんと事業を遂行していることは非常に大事なことである。

もう一つは、無形の部分もやってほしいということ。文化庁で伝統文化親子教室事業をしており、私もその委員の一人で、10 年ぐらいやっている。しかし、残念なことに、無形文化財の応募が非常に少ない。中でも祭り・民俗芸能の応募がすごく少ない。そういう事業を利用し、例えばこの 11 の団体が親になり事業を展開して、長浜の街中の人たちが親子で参加できるような事業を行えば、いわゆる少子化対策にもなるのではないか。学校と連携してやることもできる。すでに伝承委員会における実績もることからそのパターンをこの 11 の団体でもやってもらったら、効果があるのではないか。茶わん祭りでも稚児の舞というものがあり、伝統文化親子教室でエリアを広げ親子で参加してもらおうなど、有形と無形の両面から伝統文化を引っ張っていただきたい。

(会長)

委員から発言、提案をいただいた。事業期間の残りが 4 年間という中で、新規事業として、新たに計画に織り込むことは可能か。

(事務局)

できないことはないが、調整が必要と思われる。

(会長)

委員から提案のあった伝統的文化を世代を跨って親子で伝えていくという考え方は、長浜にふさわしい取組と思った。今の計画はハードな整備が主であり、根底にある大切な部分が表に浮かび上がってきていないくらいはある。今後協議会から要望を示すことが必要だが、その上で

担当課による検討を経て新たな計画が創案され、その成果がまた当該年次の評価シートに反映されるという形をとることができれば、この協議会の場が生きてくると思う。

(事務局)

事業の追加について、計画に載せることは技術的にはおそらく可能と考える。方向性については、一度確認させていただきたい。無形文化を今後どうやって盛り上げていくか、少子化による担い手がいないという大きな課題について、どうアプローチしていくのかなど大きなテーマである。そういった取組をまとめ上げるにも、しっかり議論が必要と考える。これらを歴まち計画に乗せていくかどうかというところからの議論も必要である。今はまだ、具体的に上がってきているものがないが、手順については一度整理をしたい。無形民俗文化財のことに関しては、中島委員に相談の上、検討していきたい。

(会長)

関係課との協議などを踏まえて、そういう方向に向かって取り組んでいくことは、軽微な変更とはいえませんが、国交省と計画の変更という取り扱いも含めて事務局で検討願いたい。そういう方向に向けて関係者で協議する場を設けることができれば、新たな取組がスタートしているともいえる。

(委員)

P 5 黒壁ガラス館本館耐震改修事業の自由記述に、金庫室のレンガを撤去と記載されているが、銀行にとって心臓部にあたる金庫室の写真は、ないのか。

(事務局)

写真はない。

(委員)

現在、公開しているのか。

(事務局)

金庫は特に公開されていない。

(委員)

見たい人もたくさんいるのでは。

(委員)

私も関心持って読んだ。レンガを撤去なのか、金庫室を撤去なのか。歴史的には非常に貴重な産業遺産であり、撤去されてないと思われる。レンガ撤去というのは空調をはめ込むために一部穴を開けたということではないか。

(事務局)

そのあたりの情報はない。

(委員)

外面だけチェックすればいいというものではない。

(会長)

この進行管理・評価シートの作成にあたって担当部局任せでは協議会として必要な情報が得られない場合がある。歴史まちづくり計画の趣旨を踏まえた上で、担当課と調整するところまでは事務局の役割と考えるが。

(事務局)

承知した。我々も、この歴まち協議会でいただく各委員の発言で気づかされるのが非常に多い。様々な視点を持って、今後、計画関連書類の作成に努めていきたい。

(会長)

時間も限られており、進行管理・評価シートについてこの場では全て見切れない部分がある。ついでに、一定の期間内に、それぞれの立場から評価シートに関する意見を事務局に提出し、担当課の対応を踏まえた結果を反映するという進め方で見直していきたいと思うがいかがか。

(委員)

P8 伝統的建造物群保存地区選定調査検討事業とP14 木之本宿まちなか再生事業の自由記述が内容的に重複しているのでは。両ページにわたり空き家活動、空き家の現状把握と、その利活用の促進が記載されている。8 ページに「きのもとまちなみ研究会会員へのヒアリング」が重伝建への意見ヒアリングとあるが、資料として掲載しているパンフレットの内容が整合していないという気がする。

(事務局)

重伝建の検討事業のなかで、地元での議論の重点が変わってきている。従前は、重伝建をベースとして自分たちのまちをどうやって変えていくのか、作っていくかというところを議論していたが、世代によって、重伝建に対する見方や期待感が変わってきている。また、この間に空き家が顕在化し、問題となってきた。ヒアリングに関しては、重伝建に対して現在どう向き合っているのか、現段階での地元の声をお聞きした方がいいだろうと中村委員や研究会の他のメンバーに意見をお聞きした。シートの掲載内容については、違和感がある部分については修正する。

(会長)

評価シートは、年度毎で完結するものでなく、事業のスタート時点から現時点、あるいは将来完成するまでの間の記録として積み重ねていくものである。その間、担当者は変わっていくが、この計画の目的や実績資料については、事務局で調整し、事業成果として残していったほしい。

(事務局)

大事に作り込みしたい。

(会長)

内部の調整を期待する。限られた時間内での協議であったが、最終的なものをブラッシュアップし、取りまとめることを前提として承認いただきたい。